

写真1 / 外国人墓地から眺める山下地区は今や、高層ビルで視界が塞がれるようになっている



写真2 / 旧山手居留地の地域内であることを示す明治時代の道標



電業足報 電業耳報 NO.13

住みたい街ナンバーワンを続ける横浜の魅力の源泉とは オールドタウンと未来都市が隣り合い響き合う姿にあり

取材・構成 / 本誌編集部

☆近代の幕開けとともに登場した未来都市の今

本誌恒例のウイークリー企画《電業足報・電業耳報》。今回は近年の「住みたい街ランキング」等で常に圧倒的人気を示す横浜市内の中でも、特に個性豊かな「オールドタウン（横浜港周辺）」と「みなとみらい地区」を訪問。あまりにも対照的な成り立ちでありながら、隣り合い、響き合い続ける両地区が醸し出す「住みたい街・ヨコハマらしさ」の秘密をレポートしていきます。（今週はその前編、後編は12月の本欄に掲載）。

*

「とにかく横浜が大好き」「自分は横浜にいれば、東京に一生行かなくても平気」とまで公言する人々がた



写真3 / 山手地区の異国情緒を代表するシンボルの一つ、山手一番館は結婚式場としても人気

くさんいます。そうした人々に共通する心理を知りたくて、今から2年ほど前になりますが、10人以上の「断然ヨコハマ派」の人々に、インタビュー取材をさせてもらったことがあります。

その人たちにおしなべて共通していたのは、横浜駅周辺に展開する都市としての利便性の高さもさることながら、横浜港周辺に今もある「近代初期の雰囲気濃厚に遺すオールドタウン」と、横浜港に隣接する地区に現在進行形で建設されつつある未来都市「みなとみらい地区」という、一見、非常に対照的な両地区が醸し出す「ヨコハマらしさ」への愛着でした。

本レポートの前編となる今回は、そのなかでも近代の幕開けとともに、突如出現した国際都市ヨコハマともいべきエリア、具体的には旧外国人居留地とその周辺の街並みを、まずは改めて訪問しました。

そして、現代人の琴線に触れて止まない「オールドタウンの魅力」を、あれこれ考察してみた次第です。

*

取材者が今回歩いたのは、旧外国人居留地としての山手地区と山下地区、さらには横浜の旧官庁街ともいえる日本大通り、さらには、1872（明治）5年に汽笛一声で新橋と史上初の鉄道で結ばれた横浜側の起点、桜木町駅周辺までのエリアです。

このエリアを縦断する形で、2004（平成16）年に開通した「横浜高速鉄道みなとみらい線」の駅でいえば、

*本文、後略